2024 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071300406		
法人名	特定医療法人 弘医会		
事業所名	グループホーム とりかい	ユニット名	6階
所在地	福岡市城南区鳥飼6-7-14		
自己評価作成日	2024年 9月1日	評価結果市町村受理日	2024年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年9月13日	評価確定日	2024年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で利用者一人ひとりの出来る事を尊重し、寄り添った介護に努めています。訪問診療、訪問看護を導入し体調不良時、看取り期も安心して生活できる環境にあります。管理栄養士が監修した食事の提供、寝たまま入られる機械浴の設備もあります。グループホーム、小規模多機能、訪問看護ステーション、有料老人ホームが併設、連携している事により地域に密着したサービスを提供出来る様努めています。また、地下鉄の駅やバス停が近く交通の便が良いので家族や知人も面会に来訪しやすい環境となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームとりかい”は「複合施設とりかい」の5階と6階にある。ホームからの見晴らしは良く、2つのユニット個々に管理者を配置し、協力体制もできている。隣接する“福岡鳥飼病院”が母体病院であり、医療連携（24時間）と多職種連携もできしており、ホームでの看取りケアも行われている。管理者と職員は“利用者の立場に立つて”個別に対応するように努めており、ご本人の生活歴と日々の行動の意思決定を丁寧に把握している。日々のケアが「不適切ケア」に繋がっていないかを検証し、職員全員の更なる意識向上に繋げている。日々の楽しみと個別ケア（個別外出）も大切にされており、感染対策に留意しながら周辺の散歩を楽しまれ、初詣（鳥飼八幡宮）、花見（鳥飼南公園、福岡市動植物園のバラ園等）、山笠見学、友泉亭公園、マークイズ福岡、福岡市美術館等にお連れしている。「洋服が欲しい」という要望があり、一緒にショッピングモールで買い物を楽しまれ、福岡市動植物園のバラ園見学の際は家族と合流し、一緒にバラの見学を楽しむことができた。今後も家族の方々と一緒に日々の楽しみや役割作りを増やす予定であり、『日々の生活の中で“笑顔（笑顔が絶えない）・安らぎ（安らぎのある生活）・交流（人、地域との交流を大切にする）”』という理念の実践に繋がっていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>スタッフルームの目立つ場所に常に掲示しており、常に意識しながら業務にあたるようにしている。カンファ等で利用者様が笑顔になれるように常に模索している</p>	<p>職員の入れ替わりを経験している中、2人の管理者を中心に職員は結束し、技能実習生も含めて理念を共有している。家族から「入居前より笑顔が増えて嬉しい」「家族自身も穏やかな気持ちになった」等の言葉を頂くこともあり、日々の生活の中で“笑顔（笑顔が絶えない）・安らぎ（安らぎのある生活）・交流（人、地域との交流を大切にする）”という理念の実践に繋げるよう努めている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>感染防止の観点からなかなか地域とつながりが持てずにいるが、公民館行事などを通して繋がれるように模索している。</p>	<p>5年ぶりに「どんたく隊」が来訪して下さった。若葉高校の生徒もボランティアで来て下さり、クッキー作りを通して交流を楽しまれた。鳥飼南公園で桜の花見を行い、地域の子どもの笑い声を聞くこともでき、恒例の八幡宮に初詣に行き、おみくじを引かれた。職員が周辺のゴミ清掃を続けたり、散歩の際に城西中学の体育祭の練習を見学することもできた。コロナ前はふれあいサロンや敬老会、福大学園祭に行ったり、中学校の職場体験を受け入れ、鳥飼祭りは会場設営から参加していたが、2024年度は秋祭りに参加（出店）できるよう企画している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>広報紙や運営推進会議を通してホームの理解を広げている。</p>		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	レクリエーションやインシデント報告など実施し、その際に出席者より意見を伺っている。その意見を参考にしながら事業所の運営やサービスに反映させている。	対面での通常開催をしている。日々の暮らしぶりや行事、外出状況、インシデント・アクシデント報告とともに、身体拘束廃止委員会からセンサー使用等の報告をしている。日々の暮らしぶり等は写真を投影し、より伝わる工夫を続けており、参加者の方から色々なご意見を頂いている。地域情報も教えて下さり、特定技能の職員などとの異文化交流ができないか等のご意見を頂くこともできた。今後も地域に密着した取組みを行う予定であり、運営推進会議の機会を有意義な場にしていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や城南区地域密着部会などを通して取組みを伝えている。	運営推進会議に区の職員・保健師、地域包括の職員などが参加して下さり、ホームの実状報告を行い、アドバイスを頂いている。福岡市からの各種調査（アンケート）依頼があり、ホームとして協力している。認定の申請書等は郵送で送り、不明点は電話で相談し、おむつ申請等で区役所を訪問時も情報交換している。コロナ以前は利用者と散歩しながら、地域包括や区役所に立ち寄り、一緒にご挨拶をされていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所周辺は車通りが多いことと離設する可能性の高い利用者がある為、安全の為玄関にはロックがかかるような設えになっている。	身体拘束の概要や事例紹介などの勉強会「身体拘束と不適切なケアについて」等を行い、虐待防止委員会も行われている。別法人で実際にあった拘束事例を検討し、議論を深める機会に繋げたり、日々の振り返りに活かしている。利用者の重度化で転倒リスクが増え、見守りの強化や原因分析とともに、家族の同意を得てセンサーマットを使用している。防犯上、ユニットの玄関を施錠していることを入居時に説明しており、ベランダや周辺の散歩等、気分転換に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	アンケートや勉強会を通して学び知識の向上の機会を設けている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して知識の向上に努めている。	重要事項説明書に制度に関する内容があり、入居時に家族等に説明している。入居後も制度の必要性を確認し、必要時は制度の説明を行う予定である。制度に関する研修会を行い、知識の共有に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時や入居時に特に時間をかけ丁寧な説明を行っている。また、都度疑問点がないか利用者やご家族に確認しつつ理解や同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは電話や文書で連絡を頻繁に行い、良好な関係を築き意見や要望を活発に吸い上げられるように工夫している。また、事業所の玄関に意見箱を設置している。	感染状況に応じた面会方法を検討してこられた。Zoomを利用した3者通話も行い、遠方の家族も喜ばれている。毎月のお便り【とりかいたより】は写真を多く掲載し、日々の暮らしぶり等を記入した用紙も一緒に家族に郵送している。家族の面会時や電話で近況を報告し、体調や症状等に応じて詳細な報告をしている。家族の心理(遠慮など)に寄り添い、真意を伝えて頂けるように努めているが、今後も更に密な現状報告を継続し、信頼関係の構築に繋げていく予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで各職員の意見を収集できるよう努めている。良い意見や提案についてはすぐにケアに反映できるように実践している。	カンファレンスや日常の中で職員の意見を聞いており、年度末にアンケートを実施している。ユニット個々に管理者を配置し、協力体制もできており、職員個々に年度目標(自己目標管理シート)を記載し、更なる能力アップに繋げている。複合施設全体で毎月の勉強会もあり、個々の事業所の情報共有もできています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の家庭状況や、保有資格、意欲、実績に応じて役割や勤務シフト等を考慮している。そのことで、職員各々のやりがいや向上心が芽生えるように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	不当な採用拒否などは行っていない。その上で職員の性格や特性を見ながら業務の采配をしている。	能力が十分に発揮でき、笑顔で仕事ができるかどうかなど、採用時に確認している。管理者は職員個々の適材適所を大切にしており、系列事業所への異動があることを了解して頂くと共に、個々のスキルアップのための異動であることも理解して頂いている。家族背景に応じた勤務調整を行い、働きやすい環境が作られており、有給取得もできる。チームワークも良く、職員が得意なこと（パソコン・母国の中華料理・レク・コミュニケーション・盛り上げ役等）を担って頂いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	介護における基本姿勢を目に付く場所に掲示やカンファレンスなどを通して、普段より職員の意識付けを行っている。また年に1回以上勉強会を実施。	法人全体の毎月の機関紙に、人権・倫理等のコラムがあり、“利用者本位”という視点を共有している。管理者も「自分だったらどうか」「自分の家族だったら」という視点で職員と情報交換し、職員個々の考える力を養っている。利用者個々の背景や心理状態に応じた傾聴の仕方や声かけ、相槌を行うことができています。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で研修計画を作成、職員が年に1回以上外部研修に参加できるよう機会を設けている。しかし、実際には募集要項や募集人数、職員の配置の関係で全ての職員が参加できているわけではない。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会や地域密着部会への参加等他事業者と交流する機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活暦や生活状況、要望を聞き、職員間で情報共有を行いながらケアに反映させている。その上でお互いに信頼関係を築く足がかりにし、安心につながるよう努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配事、要望を聞きながら共に利用者の生活を支えることを通して良い関係が築けるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を確認しながら必要なケアを進めていく。申し込みの段階で他の支援が必要であれば進めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ役割を持ってもらう様に、残存能力を活用できるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族の関係が途切れないように、日々の変化をご家族にこまめに報告したり、ご家族からも積極的に意見がもらえるように働きかけ、共に利用者を支えているという関係作りを進めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人・趣味などは本人や家族から確認するようにしている。面会に関しても予約制や時間の制限もあるが基本的にはいつでも歓迎している。	家族と一緒に馴染みの美容室に行かれる方もおられる。馴染みの場所を職員とドライブ（散歩）したり、馴染みの山笠見学も楽しまれている。5年ぶりに馴染みの「どんたく隊」が来訪し、皆さん喜ばれていた。グーグルアースやYouTube等を利用し、馴染みの場所を感じ取れるように支援しており、馴染みの地元や祭りの写真を居室に貼っている方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通して利用者同士の交流が生まれる様に努めている。また、他者との関わりが苦手な方に関しては孤立しないよう配慮しながら対応している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが最終しても関係が立ち消えないように、困ったことがあれば相談に乗るなどフォローする体制をとっている。また、運営推進会議などに参加してもらい体験談など語ってもらっている。さらには、そこから次の利用に繋がっていったケースもあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人の意向を確認し、把握に努めている。本人からの聞き取りが難しい場合は表情や反応の確認、家族からの聞き取りなどをして思いや意向をくみ取っている。	日々の生活の中で、ゆっくり過ごせる時間が作られており、ご本人の「食べたいもの（天ぷらそば等）」「入浴の希望」「家族に会いたい」「行きたい場所（美容院に行きたい等）」「洋服を買いに行きたい」等の願いを叶えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの居住環境や生活スタイルを詳細に把握し、本人に合った支援を提供している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションを積極的に行い生活リズム等観察し安全性や快適性を考慮し必要な支援を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月ごとの見直しや状況変化時にカンファレンスを行い状況に即したケアプランを作成している。また、職員間で共有できるように努めている。	前回の外部評価以降、アセスメントシートを改良されており、更に深く起居動作等を分類し、できそうな能力、介助理由、解決策（リハビリ内容等）、事故予防等に繋げている。介護支援専門員と担当職員が中心に計画を検討し、生活歴や得意な事なども記録しており、介護支援専門員がアセスメントと介護計画の整合性を整えてこられた。全職員でアセスメントと計画内容を共有し、日々のケアに活かしており、計画作成担当者や他の職員、主治医、訪問看護師、理学療法士等からアドバイスを頂き、歩行訓練や拘縮予防訓練等が行われている。	①今後もアセスメントの「意思決定」等の能力の記載を深め、ご本人の思いや意向、行動の背景に繋げていくとともに、介護計画の「ニーズ」欄と短期目標に繋げていく予定である。 ②計画内の言葉（表現）を振り返り、ご本人に伝わる表現を更に取り入れ、ご本人・家族との「話し合い」を増やしていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり個別の記録があり、日々の状態を記録し申し送り時に伝達している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に2回訪問診療、また、体調不良の際はすぐに協力病院へ受診や往診してもらえる体制を整えている。訪問看護師訪問、歯科往診など一人ひとりに合わせたサービスを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共のサービスや施設については概ね理解や把握は出来ているがインフォーマルな資源については、まだまだ知識が乏しい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療計画書作成し、状態にあった医療が受けられるように対応している。	隣接する福岡鳥飼病院が「かかりつけ医」の方がほとんどであり、病院系列のグループホームということで信頼して入居される方が多い。往診（月2回）、訪問歯科、訪問看護（月2回）も受けられ、希望の眼科や認知症専門医等は家族が同行されている。主治医から食事やリハビリ、環境整備等の指導を受け、職員の介護の手間も理解して下さる。理学療法士からのアドバイスもあり、必要時は言語聴覚士に相談できる。日々の体調は所長（看護師）に報告し、早期対応に繋げると共に、家族に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化した際は同敷地内の訪問看護師へすぐに連絡できるように体制を整えている。又、月に2回訪問看護師が訪問し相談や看護を受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、先方の病院に定期的に連絡し入院中の状態を詳細に聞き、記録に残したり他利用者の訪問診療の際に主治医や訪問看護師に入院中の状態を報告するようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院、訪問看護ステーションと密に連絡を取り、本人や家族の意向十分に汲みながらで事業所として提供できること、できないことを相互で確認しながら終末期におけるケアを提供している。	ホームでの看取りを希望される方が多い。ホームでは酸素療法、点滴を行うことができ、往診医、訪問看護師との連携もできている。主治医と話し合い、個別手順書を作成し、最期まで誠心誠意の温かい寄り添いとケアが行われている。居室にソファを準備して家族に利用して頂き、自宅の庭で収穫した柑橘果物を家族が持参して下さり、ゼリーにして食べて頂いた。担当職員が主になり、ご本人がベッドに休まれている目線の所に、地元風景やお祭りの写真を貼っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回は緊急時の対応についての勉強会を実施している。その際に職員間で実践的な不安や疑問が生まれた場合は、話し合う機会を設けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の中では定期的な防災訓練と研修会を実施している。また運営推進会議の参加メンバーである民生委員の方と公民館館長との繋がりをもって協力体制を築いている。	階下の小規模多機能事業所と一緒に昼夜想定訓練を行い、病院職員も参加して下さる。ホームが5階・6階であり、火災時等は防火扉の外で待機予定になっている。複合施設全体で夜勤者が3～4人勤務し、協力体制もできている。母体病院や系列施設の緊急連絡網があり、同一法人に食料や飲料水等を備蓄し、ホームに飲料水を準備している。BCP（業務継続計画）を作成し、重要事項説明書にも記載しており、「BCPとは」等の動画研修も行っている。火災時は消防車「はしご車」が到着して避難予定であり、今後も消防署等との協力体制を深めていく予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1年に1回以上接遇の勉強会を実施し、言葉かけや対応について見直す機会を設けている。またその際に具体的に困ったケースなどを話し合うようにしている。	人格を否定しないように“利用者の立場に立って”個別に対応するように努めている。職員の都合で、利用者の“自己決定する場や時間”を奪っていないかを振り返り、申し送りやカンファレンスで共有している。ご本人の呼び名も個別に検討し、家族に承諾を得ると共に、職員との信頼関係に応じた適切な呼び方をするように努めている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方向的に利用者の思いや意向を決めつけず、普段の会話やふれあいの中から利用者の思いを抽出して自己決定ができるように関わっている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等ある程度一日の流れや時間が決まってしまう事は多いが、職員の配置を工夫し遅延や変更ができる点は本人の体調やペースを見て意向を聞きながら対応できるように工夫している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人と一緒に服を選んだり、外出時や家族が面会に来られる際には職員と一緒に化粧をする等おしゃれを楽しめるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事で使うお盆を拭いて頂くなど部分的に一緒に片づけている。しかし配膳に関しては感染症防止の観点から積極的に一緒には行っていない。利用者本人より希望が聞かれない限り職員のみで行っている。	同法人の老健施設で調理し、ホームで個別にミキサー食などを準備している。利用者も味見や下膳、食器拭き、テーブル拭き等を手伝って下さり、毎月1回の「食レク」では、利用者の希望で出前（うなぎ丼等）を楽しまれたり、希望の料理（天ぷらそば等）を作られたりしており、利用者も包丁で食材を切っただ下さる。両ユニット一緒に鍋料理などを楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	例えば手指の筋力が低下した利用者においては、カトラリーを持ちやすく軽い物に変更し出来るだけ自身で摂取出来る環境や補助食品の活用を整えている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、口腔ケアを行っている。その際に自身でうがい出来る利用者には汚れを取り除くだけでなく口に水を含んで汚れを排出訪問歯科の往診時に歯科医や衛生士に助言をもらったり、相談するようにしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下肢筋力の低下によって立ち上がりや立位保持が困難な利用者であっても便意を訴えられた際には、職員2名以上でトイレにお連れし排便を促すように支援している。	トイレでの排泄を心がけている。 下着を着用し、自立している方もおられ、必要に応じて個別誘導し、失禁が減った方もおられる。パッドの種類を個別に検討し、失禁時は速やかに交換しており、排泄の不快感や臀部の皮膚状態の改善、家族のコスト負担の削減に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者に対しては乳製品を積極的に提供し、快便につながるようにしている。また、活動量が少ない利用者には自転車のペダルを模したペダル運動器を使用し腹部を刺激するようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特段希望のない利用者に関しては、職員が概ね入浴曜日や時間をある程度設定しているが、午前中入浴に対して拒否がみられる利用者の方に対しては午後からの入浴が提供できるように配慮している。	同性介助も行われている。1階に特浴があり、5階と6階の職員が協力して入浴介助をしている。ユニットの個浴を利用する方もおられ、ご自分でできる範囲を洗われている。湯温やシャンプー・ボディーソープの希望の有無などを確認し、入浴時に利用者の昔話や生活歴、思いなどを話してもらえよう、ゆったりとした関わりをされており、歌も聴かれている。体調に応じてシャワー浴を行い、日々の入浴（週2回）以外、陰部洗浄等も行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間睡眠が断続的で、日中も転寝がみられる方には午睡の時間を設け睡眠のリズムを整うように働きかけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が内服薬の効能や副作用を理解しているとは言い難いが、主な薬については効能は理解している。また身体や認知症の状態によって内服薬を掌に乗せたり、口に直接入れるなど工夫している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長年、習い事として詩吟を習っていた方に対して余暇の時間にタブレットを用いて詩吟を音楽として流すなど楽しみに繋がる様になっている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週間のスケジュールを概ね決めており、それによって職員の配置やシフトを組んでいる為、なかなか突発的に外出の機会設けることは難しい。しかし、予定がない日などは時間を見つけなるべく近隣でも外出の機会を作るなど気分転換ができる様努めている。	感染対策をしながら散歩を楽しまれている。初詣（鳥飼八幡宮）、花見（鳥飼南公園、福岡市動植物園のバラ園等）、山笠見学、友泉亭公園、マークイズ福岡、福岡市美術館等にお連れしている。「洋服が欲しい」という要望があり、一緒にショッピングモールで買い物を楽しまれた方もおられ、福岡市動植物園のバラ園見学の際は、家族と合流し、一緒にバラを楽しむことができた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人がお金を管理したいという希望がある方についてはご家族の了承をとって少額の金銭であれば自身で管理してもらえるようにしている。また、外出の際にその金銭を使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1年に1回新年の挨拶に家族にはがきを書く機会を設けている。また知人から手紙が届いた際には、返事を書くように促すこともあるが利用者本人が書きたくないと拒否されることが殆どである。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温や調光を小まめに調整するなどし極端に不快感を感じないよう環境作りに配慮している。担当の職員が季節感のある壁飾りを作成し展示することで建物内においても季節の移ろいを感じられるようにしている。	複合施設の5階と6階に2つのホームがあり、両ユニットともフロアが広く、見晴らしも良い。利用者個々で気温の感じ方が異なり、3か所の風向口から出る冷房や暖房の温度を0.5℃単位で調整している。リビングの大きな画面で「DVD」「YouTube」の上映会を行い、ドリフターズや漫才等を楽しまれている。5階の窓には季節の飾り付けを行い、6階のベランダでは野菜と花を育てており、収穫したきゅうりは「ぬかずけ」にしている。5階の利用者が6階に行き、ベランダの野菜や花を楽しまれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では気の合う利用者同士会話が広がるようにソファを数か所設置している。また独りになりたい時には他利用者との間隔が保てるように一人用のイスも数か所設置している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
56	(23)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自室には、愛用していたタンスや仏壇、家族の写真など思い出を感じられる物を自由に持ち込んでいただいている。持ち込んだ家族の写真を見ながら話題の提供する等交流の糸口にもなっている。</p>	<p>各居室はご本人が居心地良く過ごせるように努め、好きな俳優のポスターを複数の壁に貼り、体位交換の際に見れるようにしている。嫁入り道具の筆筥、家族の写真や地元の写真（祭りの写真）、お孫さんが手作りした作品、仏壇・お位牌等も置かれており、手を合わせ、ご自分で水を供える方もおられる。どんたく隊の方から「どんたく笹飾り」を10本いただき、部屋に飾っている方もおられる。ご本人と職員は室内靴を履き、家族の方は玄関先のマットで汚れ等を拭き、外靴のまま入室して頂いている。清掃も継続し、先日はワックスがけも行われた。</p>	
57		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室のタンスから自身で衣服を選んで出すことが出来る利用者には室内の家具の配置を工夫しバランスを崩してふらついていてもベッドに座ることができるように配置を工夫している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				